

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104241
法人名	株式会社クロスサービス
事業所名	グループホームむく2階
所在地	愛媛県松山市西野町甲434-1
自己評価作成日	平成26年5月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>一人一人、少しでも持つ力が持続出来るよう、生活していく中で、選択出来る場面やご利用者同士が関わって行ける時間が持てるように努めています。又、関わりの中、表情や言葉等から気付いた事があれば、その事をスタッフ全員が認識出来るよう申し送りノートや口頭で伝えるようにしています。特に百歳前後の方や自分の意思を伝えられない方が居られるので、健康面でも小さな変化に気付き声を掛け合っています。居室で過ごされる方も生活感が感じられる様体調を見ながら、フローアー・ベランダで過ごして頂けるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●玄関先には鉢やプランターに花を植え、玄関の中には利用者が生けた花が飾居間の棚には、利用者個々のアルバムが置いてあり、ご家族がいつでも見られるようにしている。ベランダにツバメが巣を作っており、巣から落ち、弱っているヒナに、利用者がストローで餌や水を与えておられた。庭の畑には、なすやきゅうり、おくら、いちご等を育てて楽しんでいる。</p> <p>●毎年、年賀状が50～60通届く利用者には、事業所で差出人を印刷したり宛名書きを手伝ったりして、関係を続けられるよう支援されている。利用者の希望に沿って、ご本人の実家へ職員と一緒にいけることもある。職員が送迎して馴染みの美容院を利用している方もいる。近所のお店と馴染みとなり、買い物に行く、「〇〇さんは元気？」等と気かけ声をかけてくださるようだ。毎日来訪するご家族は、昼食と一緒に食べてから自室にて利用者の足のマッサージ等をされている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームむく

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 吉井 えり子

評価完了日 26年 5月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ミーティングなどで理念の見直しや勉強会などを年に一回は行っています。理念の用紙を個別ファイルに一人一人の職員が保管し、出入り口(玄関)に掲載することで、常に目にする事が出来、外部の方にも分かるようにしています。職員の理解には差があり、まだ、十分とはいえない。	
			(外部評価) 現在は、3年前につくった理念をもとに取り組みをすすめているが、管理者は、「地域の方とのふれあいを大切にしながら、自分が入りたくなるような事業所を目指した理念をつくりたい」と考えており、職員の意見を聞いたり、事業所の課題等を踏まえて、7月に新しい理念をつくることを計画されていた。新しい理念は、通信や便りを用いてご家族や地域に発信していきたいと話しておられた。	理念づくりを機に、すべての職員で地域の中の地域密着型サービス事業所として、「今後どのようなことに取り組んでいくのか」ということを話し合ってみてはどうだろうか。又、ご家族や地域の方達とも共有して事業所の特長を活かしてグループホームむくならではの取り組みをすすめていかれてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な事から行事ごとまで、二か月に一回広報誌を発刊しています。推進会議・回覧板などで地域の情報を教えて頂き、地域の行事にご利用者と参加している。婦人会の方が定期的に絵画を玄関に飾りに来られたり・畑づくりのアドバイス・季節の野菜を持って話しに来られたりしている。近所の子供たちが遊びに来られる様、声を掛けています。	
			(外部評価) 2ヶ月ごとに約30部発行する「むく通信」は、近所に配布したり、近所の喫茶店やお好み焼き屋に貼らせてもらっている。通信をみて、「AEDのことを知りたい」と訪ねて来られた方もいるようだ。事業所によく遊びに来る近所の子供がおり、利用者は「大きくなったね」等と言葉をかけ見守ってこられ、保護者の方は、「利用者にも育ててもらった」と話されるようだ。地域のお祭り時には事業所が神輿の休憩場所となり、おでんやお菓子を振る舞われる。利用者は子供神輿を担ぐ子ども達にあげるため、ティッシュにお金を包んで待たれている。地域の小学校の児童から利用者宛に運動会の招待状が届き、お礼状を出す利用者を支援されている。管理者は、「地域と助け合える関係でありたい。地域の介護相談の窓口になりたい」と話されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活用して普段の様子がわかりやすい様「むく通信」を配布し話をしている。また、認知症についての勉強会を行っています。散歩などで、積極的に近所の方々へ声を掛けるようにしている。早朝道に迷われ困っていた高齢者を一時的に保護したことがあります。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 広報誌を使って近況の報告を行っています。その時の議題に応じて、松山市の職員さんや地域包括支援センターの職員さんに近隣の事業所の状況などお聞きしながらご意見を頂きサービスの向上に活かしながら努めています。(感染予防、防災対策、地域交流など)	
			(外部評価) 会議では、「むく通信」を見ながら事業所の様子を報告したり、「サービス評価の取組み」「グループホームってどんなところ?」「AEDの取り扱い講習会」等について勉強をしたり、「避難訓練」や「おやつ作りと試食会」を行うこともある。事業所には今年4月、AEDを設置しており、会議に参加する民生委員の方を通じて、地域に回覧で知らせてもらえるようになっている。ご家族には、2週間前に会議の案内を出し2~6名の方が参加されている。管理者は「ご家族はもちろん、若いお母さん方、婦人会の方等にも参加してほしい。」と話されていた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所連絡会で行政の意向の把握に努めています。、運営推進会議で事業所の取組みを積極的に伝えていき、協力して頂ける事は協力をお願いしています。	
			(外部評価) 運営推進会議を土曜日に行う場合でも、市の担当者は参加してくれており、介護保険制度について説明してくれたり、感染症対策の他事業所の取組みの工夫点等を教えてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人の研修会で一年に一回は身体拘束と虐待防止に関する項目があり、スタッフが順番に参加をしています。転倒などの事故が起こった際にも、自己報告書を活用し、職員全員で対応策を即座に検討はしますが、安易にご利用者の行動の幅を制限する事が無いように注意しています。 身体拘束の事例は無く、玄関の施錠も夜間の防犯のみです(21時~7時)。	
			(外部評価) 職員は、法人内研修時に、身体拘束、虐待について勉強しており、身体拘束をしないケアに向けた取組みをすすめておられる。調査訪問時、玄関は自由に開閉できるようにしており、利用者は玄関から出て建物の外で喫煙されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の研修会で一年に一回は身体拘束に関する項目があり、順番に参加をしています。また、『不適切なケア』という段階で職員一人一人が意識が持てるよう研修とミーティングを活かして勉強をしています。適切なケアについてもスタッフルームに掲載することで確認できる環境に努めています。日頃から皮膚の観察に努め、小さな傷や内出血でも申し送りを行い、職員同士で声を掛けやすい環境作りに努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティング等を使って権利擁護の制度について学ぶ機会を設けています。実際に制度を活用されているご利用者もおり、後見人の方と話をする機会も多く、制度を活用する事でどのように解決が図れるのかをお聞きし学んでいます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、事前にご本人に面会を行い現在の状況を確認しています。その上で、出来る限りご自宅でご本人とご家族と事業所の三者で契約の説明が出来る環境作りに努めています。契約書の項目説明について、事例を交え分かり易くお伝えしています。また、事業所が出来ない事については、その背景も含めてしっかりお伝えしてご家族の納得が得られるよう努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の意見が言いやすいように、色々な立場の職員が関係を作れるように努めています(管理者・リーダー・担当者)。 また、家族会や運営推進会議などでも率直なご意見が頂けるように、事業所からの問いかけに努めています。 (外部評価) 足遠くになっていく様子が見られるご家族には、電話やファックス等でやり取りして、利用者の様子を知らせることに努めておられる。管理者交代時には、運営推進会議やご家族来訪時にあいさつして紹介された。4月に利用料金の変更があった際には、家族会を開催して説明と同意を得られた。運営推進会議は、ご家族の仕事の都合等を考慮して、土曜日開催することもある。	家族会の内容や進め方について、たとえば、時には事業所の外で食事会を開いてみる等、ご家族がざっくばらんに話ができ、気軽に意見や要望が言えるよう、工夫されてはどうか。又、ご家族同士でお話しができるような機会も設けてみてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングを利用して、現在の法人の運営について管理者から報告を行い、職員一人一人が確認をしたり、意見を言ったり出来るような環境作りに努めています。また、人事考課(年に4回)とOJT(年に4回)も活用しながら一人一人の意見の反映に努めています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前はユニットごとにミーティングを実施していたが、管理者交代を機に、「18名の利用者を全職員で支援しよう」と、毎月、全職員が出席してミーティングを行うことを始めておられる。3ヶ月に一回、職員が自己評価を行い、上司の評価と照らし合わせながら、管理者と面談を行う仕組みがあり、職員個々が3ヶ月間の個人目標を立て目標達成に向けて努力されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>キャリアパスの仕組みをしっかりと明文化する事で、職員一人一人が自分がどの役割で働いているのかが確認できるようにしています。人事考課の面談を活用して個々の目標を作成すると共に、メンタルヘルス委員(管理者)が日頃のストレスチェックと労働環境の確認に努めています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>人事考課のタイミングで一人一人の職員が年間の目標を作成しています。その目標に向かって日々のトレーニングをリーダー管理者と行い、三ヶ月に一回OJTシートで確認を行っています。個々の研修計画に基づき法人の研修、事業所の研修、外部研修に参加しています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所連絡会やグループホーム連絡会に積極的に参加しております。 また、同法人の地域密着型でQOC委員会・各研修で勉強会を行ったり、訪問看護師との医療連携会議を行いご利用者の生活の質を向上させるための取り組みを行っています。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用開始前にご本人やご家族との面会を行い、困っている事等ニーズの確認を行っています。ご利用者にも当事業所の見学に来て頂き現在の不安な事や要望についてお聞きした上で入居の手続きに移れるよう配慮しています。入居初期に不安で居室で休めない方には、夜勤スタッフの近くで休めるようにベッドを用意する事もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご契約時に、困っている事をまずお聞きするようにしています。利用開始後は、面会時に困っている事や不安な事をお聞きするように努め、家族構成や子供さんの状況や住んでいる所など、失礼がない範囲で情報交換を行っています。 お互いの状況を知る事で、徐々に困っている事や不安な事が明確になり解決に向かっていていると思います。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人の訴えとご家族の訴えをまずお聞きするようにしています。困りごとに関して、多くあるようであれば、まずは何かから支援が必要であるかをスタッフ間で話し合っています。 医療に関する相談ごとは主治医や訪問看護師とも相談しながら解決に向かって取り組んでいます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に洗濯物干しを行ったり、台所仕事(調理や洗い物など)を行ったりされています。出来る事や出来ない事、出来そうなこと(少しお手伝いをすれば出来る事)を見極めて、さり気ない支援に努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時になるべく居室でご家族だけの空間を楽しんで頂いたり、時にはフロアで皆さんと楽しく過ごす時間を持ったりして頂いています。二か月に一回は経過の報告を書面でお出ししています。 ご家族との外出や帰りたい時に自宅へ帰れるよう提案していき、家族との時間大切にしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族から、馴染みの場所や人についてお聞きしています。手紙・年賀状・電話でのやり取りを行っています。 職員と実際にドライブでその場所を訪れたり、友人に会えるように、電話の連絡や訪問を行ったりしています。テレビ番組やビデオを使って地元の歌やお祭りなどを一緒に楽しみ、話題作りを行っています。 (外部評価) 毎年、年賀状が50~60通届く利用者には、事業所で差出人を印刷したり宛名書きを手伝ったりして、関係を続けられるよう支援されている。利用者の希望に沿って、ご本人の実家へ職員と一緒にいられることもある。職員が送迎して馴染みの美容院を利用している方もいる。近所のお店と馴染みとなり、買い物に行くと、「○○さんは元気？」等と気かけ声をかけてくださるようだ。毎日来訪するご家族は、昼食と一緒に食べてから自室にて利用者の足のマッサージ等をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士の関係作りが行えるように、コーヒータイムに各々の興味のある話題を提供したり、場面によって座席を迎え合わせや並行にするなどの工夫をしたりしています。会話の難しい方も話の輪に入り楽しめるよう職員が間に入り、お互いのことが理解できるような橋渡しを行っています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 行事にお誘いしたり、相談ごとに乗らせて頂く事がありました。いつでも気軽に立ち寄って頂ける様、環境作りに努めております。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) まずは、普段からのかかわりの中、言葉や表情を読みご本人の思いを聞いたり、選択してもらえるように努めています。意向の確認が困難な場合は、入居以前の生活をご家族にお聞きしたり、ご本人の表情を元に思いを知ろうとミーティン等で話し合いを行って、意向の把握に努めています。	
			(外部評価) 利用者の背景を把握して関心のある話題でお話しながら、コミュニケーションを図り、個々の希望や意向の把握に取り組まれている。利用者の状態により、希望をうかがう場合は、二者択一にする等、利用者が答えやすいような質問に気を付けておられる。広島で生まれ育った利用者には、職員が宮島の写真を引き伸ばして用意し、自室に貼ってお話を聞くきっかけにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時に、ご本人の話しやご家族の情報を元に、これまでの暮らしについてフェイスシートにまとめるようにしています。その後も、都度に趣味嗜好などこれまでの生活を会話などから情報収集しシートを使ってスタッフ間で共有できるよう努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録は、個人別記録に毎時間記録しており、特に健康に関する記録は別の用紙(バイタル表)を用いている。センター方式のアセスメントや日頃の申し送りをを使って心身の状態や有する力の把握に努めています。ウィークリー目標を作成し、それを朝と夕方申し送りして振り返ることで日々の確認を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご家族が来られた際に、現状報告を経過シートを使って行っています(担当者以外も現状がお伝え出来るよう)。その報告の際に、意向が聞けるよう努め、ミーティング中のカンファレンスやQOC(ケアの質を考える)委員会の取り組みにも反映させながら介護計画の作成に活かしています。</p> <p>(外部評価) 基本情報シートをもとに、センター方式の「ケアプラン立案シート」を使って、本人・家族の思い、現状、援助者の気付きの項目に沿ってアセスメントして、情報を介護計画に採り入れておられる。計画は6ヶ月ごとに見直し、1週間ごとに目標を立て、毎日評価されている。今冬、ご家族の結婚式に東京まで行かれる利用者が元気に出席できるよう、介護計画に盛り込みながら支援していきたいと考えておられた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録では、ご本人の訴えやその様子(客観的情報)とその背景、ご利用者の希望、スタッフの支援という項目に分けて毎時間確認を行っています。 日々の暮らしの中で特記事項となる事は、申し送りノートを活用し情報を共有したり、ウィークリープランを活用し支援目標を日々たて職員間で確認するようにしています。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 必要に応じて、ご家族と一緒に、介護タクシーを使って外来通院して、医師へ情報を伝達するケースがあります。また、重度化に伴って短期間ではあるが、活用すれば生活の幅が大きく広がるようなケースでは自費の福祉用具を提案させて頂いたケースもあります。新規のご利用者では、不安の軽減と楽しみのため、自費で訪問ヘルパーを利用されているかたもいます。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域のスーパーで買い物をされています。地区の運動会や文化祭を楽しまれたり、職員が年に一度の井出掃除に参加して町内の方と交流を図りながら貢献する場面があります。 地域の方によるお菓子販売では自分で選ばれお金のやり取りもあります。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 契約時に、ご家族による外来受診か往診医を選択して頂いています。事業所の指定はなく、ご家族の希望に合わせているが、立地条件の問題で往診出来る医師が限られているのが現状です。その為、必ずご本人とご家族には医療についての希望をその都度、直接医師に伝えてもらうように調整を行っています。	
			(外部評価) 週2回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしてくれている。緊急時には協力医に電話連絡して指示を仰いでいる。月に1回、ユニットリーダー、管理者、法人福祉課長、訪問看護師による「医療連携会議」を行い、利用者個々について情報交換をして、注意点等はミーティングで職員に伝達し共有して支援に取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) FAXやメール、電話といったツールを使って情報交換をしながら週に一回は、観てもらっています。その日のリーダーが気づきを伝えられるよう訓練を行っています。 また、月に一回医療連携会議を行い、リーダーと管理者と訪問看護師の担当者が集まって、情報提供で特に気をつける点や、観察のポイントなどを話し合っています。看取りのご利用者がある時には、こまめに話し合いを行い、方向性を確実にすることで職員の不安軽減にもつながっています。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中は、職員が時々面会に行き行って状況を確認したり、他のご利用者とお見舞いに行きご本人を勇気づけられるように努めています。入院先の医師・医療連携室とも情報交換を行い、退院の時期を確認しています。退院前のカンファレンスを毎回行いホームへの復帰後の環境整備や課題についてご家族や主治医、訪問看護師と話し合いを持っています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時や家族会のタイミングで事前に重度化についての事業所の出来る事と出来ない事の説明を行っています。その上で、ケースに応じて、ご本人ご家族と医療者を交えた話し合いを行い、ご希望に沿った対応を心掛けています。重度化のステージによってご本人もご家族も気持ちが変化することを踏まえ、話し合いは一度に止まらず、状況の変化に合わせて都度確認するようにしています。	
			(外部評価) 入居時には、「重度化し看取りの必要性が生じた場合における対応指針」について、利用者ご家族に説明をされています。ご家族は、「本人の苦痛がなく好きなように過ごしてほしい」と希望し、事業所での看取りを望む方が多いようだ。「胃ろうはしたくない」とのご本人の意向もあり、現在、食事がほとんどできなくなったが、食べたい時に食べられるものを口にできるように支援して過ごされている方がいる。週末にはご家族が泊り見守られる。看取りを経験した職員は「その方の人生の1ページに加わった」ことを貴重に感じておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の研修に年に一回、順番に参加をしています。急変の対応については、マニュアルをスタッフルームとフロアの電話の前に掲載して、いつでも確認が出来るようにしています。ヒヤリハットや事故報告の検討の際に、初期の対応を確認しています。 AED設置にあたり全職員が、使用方法・救命処置の講習を受けています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年に二回実施しており、その内一回は夜間想定で行っています。訓練は、実際の状況になるべく近い状況をイメージしながら緊張感を持てるような環境を大切にしています(運営推進会議で行うなど)。避難手順は、電話の上に分かり易いフローで掲載しており、昨年度からは、地震災害を想定した訓練を行い玄関には避難用具を設置し災害に備えております。 (外部評価) 月1回、自主的な訓練を行っておられ、担当職員を中心に通報や消火等の訓練を行っておられる。毎回、避難にかかる時間を計っており、又、その都度、「避難後もドアが開いたままだった」「同じ部屋を確認していた」等の反省点や改善点を話し合い次回の訓練につながるよう取り組まれている。運営推進会議時に、避難訓練を行った際には、民生委員やご家族に避難した利用者の見守りを願われた。個々の居室入口の名札は、避難した利用者の首にかけるようになっており、名札の裏には事業所の連絡先も記入されている。玄関に、避難用具を用意しており、運営推進会議時に参加者に中身を確認してもらった。防災頭巾も用意されていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日常生活において、親しみを持ちつつも丁寧な言葉掛けに気を付けたり、スタッフの居室入室時にお声を掛ける事などを気をつけています。また、排泄時の羞恥心や、介助を受ける事による辛さに職員が気を配りながら声掛けを心掛けています。これまでの生活について、職員が確認したり振り返る事で、再度ご利用者の尊厳について気が付ける様になっています。 (外部評価) 管理者は、「利用者のその時の気持ちを大切にしてほしい」と職員に話され、職員もその時の気持ちに沿ったケアを心がけておられる。調査訪問時、肌寒いので上に羽織るものを希望された方に職員は、「一緒に選びましょう」と声かけされていた。職員が居室に入室する際にはその都度声かけしたり、利用者と一緒に入るようにされている。調査訪問時も、「○○さんお部屋見せてもらっても良いですか?」と声をかけておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中で職員がご利用者の好みや思いを言って頂けるような話をしたり、受け答えが出来難い方には選択しを狭める(どちらかにする等)事で、選んでもらったり表情から職員が判断する等して出来るだけご本人の希望が表現できる事を支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者が自分の希望を積極的に言えないケースでも、日頃のご様子や会話などから、ご利用者の生活パターンを把握するように心掛けています。週間の目標を立てて、スタッフ間で共有する事で、出来るだけご利用者が自分の力を発揮したり安心して過ごせるように配慮しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご利用者が自分の希望を積極的に言えないケースでも、日頃のご様子やご家族との話などを参考に、なるべくタンスの引き出しを開けて、どの服にするか選んで頂くようにしています。日々の整容は起床時に行い、その後はこまめに観察する事でご本人の自尊心が傷つけられるような状態が無いように気を配っています。出来るだけ一緒に買い物に行き洋服などは選んで頂いています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者と一緒に、その日の気候や季節などの日常会話の延長で食べたいものをお聞きし献立を考えています。スタッフは、冷蔵庫にある材料を確認したり同じメニューが続いていないか等を献立表を確認しご利用者と一緒にごしらえや味見、片付けを行っています。 (外部評価) 献立は前もって決めるのではなく、当日職員と利用者で相談しながら決めておられる。食材の買出しは、近所のお店を利用しておられ、利用者と一緒に2~3日に一回、買出しに出かけておられる。職員が布で作ったランチョンマットを敷き、片麻痺のある利用者には、滑り止めマットを使用されていた。調査訪問時、利用者は、お皿におかずを注ぎ分けたり、盛り付けをされていた。職員も同じものを同じテーブルで食べながら、利用者や味付けや生活の話がされていた。お茶は、好みや習慣等をもとに、ほうじ茶、静岡茶、緑茶を用意されており、それぞれに選んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) なるべく多くの食材を使用し、栄養のバランスを考えています。また、月に1度体重測定と月2回栄養計測を行う事で現在の食事が適正であるかをミーティングで検討しています。ご利用者のご希望や状態に応じてお粥やパン、刻みやミキサー食といった形態を検討し提供しています。水分摂取が摂り難い方は、ゼリーにするなど一日約1Lを目安に支援を行っています。 記録用紙は、個々人の物で分けており、一目で数日前からの摂取の変化が分かるようにしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時・就寝前に歯磨きや義歯の手入れが行えるように声掛けを行っています。出来ないところを職員がお手伝いをして、特に残留物が無いように歯磨きを行い、歯茎等に異常がないかの観察を気をつけています。必要に応じて舌ブラシを使ったり、口腔内に異常があれば往診の先生にも相談を行いながら支援を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄をチェック表を元に把握します。訴えや表情から排泄のタイミングを捉えるように努め、なるべくご自分からの発信やズボンの上げ下ろしなどしてもらい、出来ない部分を支援するよう心がけています。 自分から訴えの出来ない方には、表情、動きを見落とさないようきを付けています。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行っておられる。足を揺らす、体が傾いてくる、眉間にシワを寄せる等、排泄のサインを見逃さず、トイレ誘導されている。「トイレ中ノックをされると落ち着けない」と言われる方があり、「使用中です」の札をドアにかけて、ゆっくり使用できるよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が続く事でイライラしたり、やりたい活動(散歩や買い物など)に支障がでないように気を配っています。ご本人の様子をしっかり観察して、顔の表情や仕草などから尿便にの可能性があるかと判断される際は速やかな誘導を行っています。 また、服薬をする際も、便意に問題があるのか形態(硬さ)に問題があるのか等アセスメントを行って医師に伝え、ご本人に合った服薬をお願いしております。ヨーグルトなども取り入れています。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自分から入浴したいと言われるご利用者がいないのでほぼ3日サイクルで入浴がしたいかどうかを聞き取っています。実際の入浴では、温度をご利用者の好みに合わせたり途中でゆっくりと会話をすることで楽しい時間が過ごせる様配慮しております。下剤の服用状態やその他の健康状態にも気を配りながら支援しています。	
			(外部評価) 2~3日ごとに入浴できるよう声かけして、ご本人の希望の時間に入浴できるよう支援されている。一番風呂を好まれる方、固形の石鹸を使用する方、ゴシゴシと強く擦るのを好む方等、利用者に応じた支援を心がけておられる。入浴後に皮膚が乾燥しないよう、ローションを塗布したり、利用者によっては、月に一回、温泉施設に出かけ、道後の街を観光して帰るよう支援しているケースもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の状態や希望によって、休息のタイミングや場所を考えています(ソファなのか居室なのかなど)。また、居室でお休みする際は、明りや温度に気を配り、カーテンや空調の調整を行っています。夜間に、不安で眠れない方はしばらく職員が寄り添う事もあります。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療ノートを作成し、往診が外来の記録を取っています。服薬に関しても変更があれば、副作用や用法の注意について医師からの説明を受けて記録に残し、職員間の申し送りに努めています。 服薬の変更後は、ご本人の様子やバイタルサインに注意し、異常があれば医師や看護師に相談を行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方の生活歴なども参考にし、一緒に家事を行っています。近所の散歩や庭での日光浴・お茶タイムなど、本人の気分に合わせて楽しみ事を支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の天気や、ご利用者の状態(気分)に合わせてお買い物へ行って買いたいものを選んでもらったり、ご希望に沿って外出が出来るように提案を行っています。 普段行けない所でも、誕生日やご家族が面会に来られた時などに、外食や馴染みの場所へ行けるよう提案などの支援をしています。	
			(外部評価) 近所を散歩したり、近くのスーパーへ買い物に出かけられるよう支援されている。初詣には、椿神社へお参りに行かれた。法人内の行事時には、他事業所へ出かけて交流されている。利用者からの希望もあってお墓参りできるよう支援したケースもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、ご本人がお金を管理する事が困難なケースが多いですが、買い物などは一緒に選んで一緒にレジに行きお金を支払う事であるべくご本人がお金を持たれている状況に近い形になるよう心掛けています。週1回のお菓子販売では、自分で選ばれお金を払えるような場面を作っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族から贈り物が届いた時には、電話で届いたこととお礼を言ったり、お手紙をお出ししたりする事を支援しています。定期的に、事業所新聞をお送りします。また、ご本人のご希望を聞いて年賀ハガキと一緒に書き、ご家族やお友達にお出しする事もあります。声の聞きたいときには電話を掛け取り次いでいます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用スペースと一緒に掃除したり、お庭の花を生けたりしています。ご利用者とスタッフが一緒に節分や七夕、クリスマス、お正月などを一緒に作ることもあります。入口の絵をご近所の方が提供して下さいました。 日頃スタッフは、ご利用者の様子を見て部屋の明かりや空調、テレビや音楽の音量を調整するようにしています。</p> <p>(外部評価) 玄関先には鉢やプランターに花を植え、玄関の中には利用者が生けた花が飾られていた。玄関には職員のプロフィールと顔写真を掲示し、利用者やご家族が確認できるようにされている。台所はオープンカウンターで、食事ができる様子やにおいがしていた。トイレのドアは赤色で居室のドアと色が違うため「トイレ」と表示はないが戸惑う方はおられないようだ。居間の棚には、利用者個々のアルバムが置いてあり、ご家族がいつでも見られるようにしている。ベランダにツバメが巣を作っており、巣から落ち、弱っているヒナに、利用者がストローで餌や水を与えておられた。庭の畑には、なすやきゅうり、おくら、いちご等を育てて楽しまれている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者同士が談笑が出来たり、時にはリラックス出来るようなソファの配置に心掛けています。 食卓のテーブルも、気の合うご利用者同士が一緒に食事をしながら会話出来るような座席をミーティングなどで話し合っ工夫をしています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室の壁にご家族の写真やハガキ、誕生日のお祝いの色紙を飾るなどして、なるべくご自分の部屋である事を意識出来るような環境作りに努めています。また、安心して睡眠がとれるようにご本人に合わせた寝具を季節に合わせて使用してもらっています。 自宅が使われていた家具を置かれている方も多い。</p> <p>(外部評価) 部屋入口には名札を貼り、見え易いように大きく文字を書いてあった。居室には、ご家族の写真、長寿のお祝い状等を飾ったり、ご家族から届いた絵手紙を壁に貼っている方もある。テレビや使い慣れたたんす、鏡台を持ち込んでいる方も見られた。畳を敷いている居室もある。庭の花を摘んできて花瓶に生けたり、お好きな野球チームのグッズを飾っている居室も見られた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) ご利用者の各居室に表札やお写真などを貼って、ご自分でご自分の部屋が分かるように工夫を行っています。 ご利用者によっては、フロアから居室、おトイレまでをご自分で移動が出来ています。スタッフは、出来るだけ手を出さず、出来ない所だけお手伝いするように心掛けています。トイレの解りにくい方のため、(赤い扉)(トイレ札)を付けています。</p>	